

特別委員会

市の重要課題等について、専門的に調査研究を行う委員会です。

行政改革特別委員会

5月12日に委員会を開催し、市政改革大綱、同実施計画、企画主幹の配置、指定管理者制度業務評価について調査を行った。

大綱、実施計画では共に案の段階で調査を行っているが、改めて説明を受けて質疑を行った。「様々な計画策定、実施検証などの場面で市民委員会を組織しているが、白紙状態で活発な意見を聞くような委員会運営が必要なのではないか。」という質疑に対し、「民間の各種団体からの選出委員、あるいは公募委員等で行政改革推進委員会などを設置しているが、行政主導になっているのではないかといい意見もある。そのようなことを踏まえて、白紙の段階で意見を聞くということもひとつの方法であると考えている。」と答弁があった。

企画主幹の配置については、「各部に部長直属の職員として企画主幹を配置し、部内における新たな重要課題に対する企画及び調整を行うことは理解できたが、部長補佐ではなく、課長補佐となっており、どのような役割を果たすのか。また、その立場で機能するのか。」との質疑に

中間報告

対し、「企画に関わることで課長以上の立場ともなる。計画・試行的な段階であり、部長が出る市政運営会議にもオブザーバー参加をして市の重点事業について協議をしながらやっている。もう少し時間が経てばより機能が高まると思う。」との答弁があった。

指定管理者制度業務評価の実施についてでは、「指定管理者を評価した上で、業績の悪いものにペナルティを科すことも必要である。その場合契約条項に盛り込むべきであるかどうか。」という質疑に対し、「評価内容によつて指定管理者にやめてもらいうくらの協定もできるのではと考えている。また、評価結果をまとめる時に、その施設が指定管理者制度に望ましいかどうかを判断してゆきたい。」と答弁があった。

調査終了後、これから市の取り組みの不足などに踏み込んだ提案型の進め方を行いたいため、委員間で意見交換を行った。

新幹線・交通網対策特別委員会 中間報告

「北陸新幹線駅周辺整備の推進と活用について」は、北アルプス日本海広域観光連携会議等と連携を強化した交流人口の増加・観光振興の取り組みが必要であり、参加自治体に利益享受のある関係構築も必要であると要望した。

新幹線駅1階の鉄道ジオラマ製作案が提示された。約4,400万円の費用で、キハ52とあわせ鉄道マニアのみならず多くの市民に楽しまれるようにするとの説明に、製作費の妥当性と製作意義を明確にすべきと意見した。また、駅周辺整備の一環として、糸魚川小学校横の蒸気機関車C12の修繕予定の報告があった。

「北陸新幹線開業に伴う並行在来線と大糸線の活性化対策について」は、開業時に導入するものと思われていたリゾート列車が開業1年後となった経緯や駅トイレの廃止、新駅建設、ダイヤ編成等について意見を交わした。委員会として、市から経費と役員を出しており、責任を持って協議に臨むべきと意見した。

「姫川港整備促進について」は、釣り人等への対応としてゲートを設置したことに対し、多目的利用や交流人口拡大の観点から、共存すること

も検討すべきと意見した。今後、港内東側での対応の可能性等を検討、協議したいとの答弁があった。

「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路市内区間の整備区間への昇格について」は、ルート案も決定せず、整備区間への昇格が進まないが、長野県側では小谷村で高規格道路に準拠したバイパス工事、糸魚川市では西中バイパスの工事が進められていると答弁があった。委員会としても沿線自治体と連携し積極的に要望活動を行うことを集約した。

5月8日、9日に鉄道ジオラマ模型と北陸新幹線開業に向けた取り組みについて、市外調査を行った。3か所で鉄道ジオラマを視察したが、各ジオラマはテーマを持ち、地元文化の表現、壁を利用しての光・照明による演出効果は参考にするべきと感じ、維持管理で重要なことは、専門家による定期的な検査と日常の手入れであることがわかった。

飯山市では、北陸新幹線開業に向けた取り組みを視察した。観光協会の法人化、旅行業登録、指定管理などの組織形態や運営方法は参考になり、見習う点が多いと集約した。